

## 「燕三条 工場の祭典」 in Singapore

### ROOTS OF METALCRAFT :Tsubame-Sanjo, Niigata, Japan

2020年2月21日（金）～3月22日（日） Nanyang Academy of Fine Arts (NAFA)

- 新潟・燕三条地域の工場見学イベントがシンガポールで展覧会を開催 -



© 「燕三条 工場の祭典」実行委員会

#### 読者お問い合わせ先

「燕三条 工場の祭典」実行委員会

公益財団法人燕三条地場産業振興センター 燕三条ブランド推進部 企画推進課 内

新潟県三条市須頃1-17

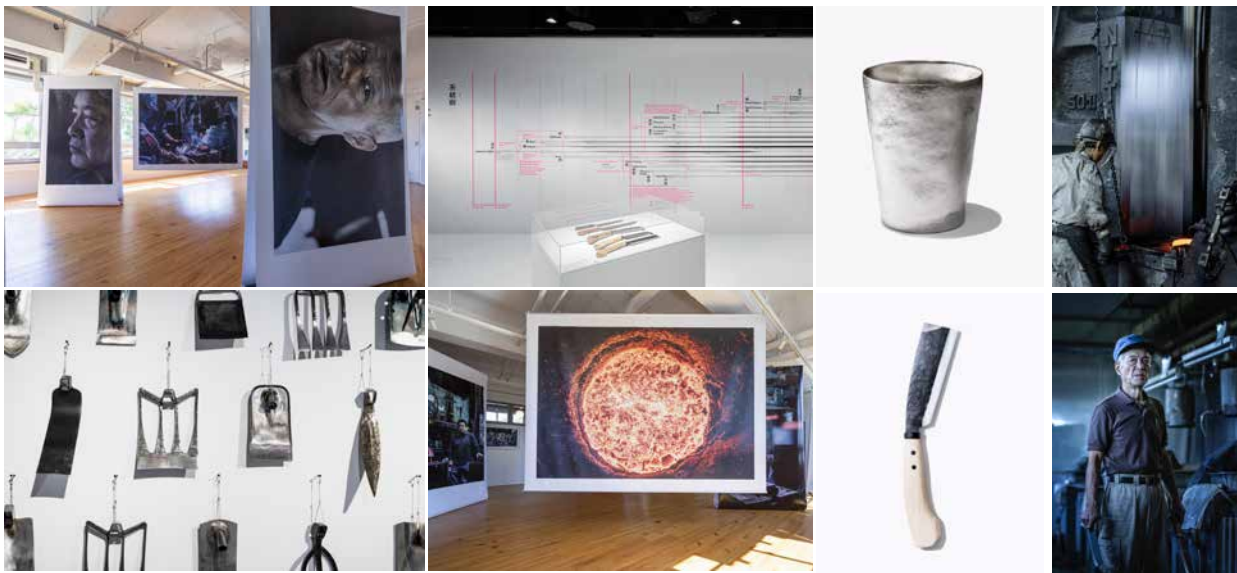
TEL. 0256-35-7811

#### 掲載・取材に関するお問い合わせ先

HOW INC. (燕三条 工場の祭典 PR事務局)

TEL. 03-5414-6405 / FAX. 03-5414-6406

EMAIL. [pressrelease@how-pr.co.jp](mailto:pressrelease@how-pr.co.jp)



©「燕三条 工場の祭典」実行委員会

2013年にスタートした新潟県燕三条およびその周辺地域の名だたる企業が一斉に工場を開放し、ものづくりの現場を見学・体験できるイベント「燕三条 工場の祭典」は、2020年2月21日（金）より3月22日（日）まで、シンガポールのNanyang Academy of Fine Arts (NAFA) にて展覧会「ROOTS OF METALCRAFT : Tsubame-Sanjo, Niigata, Japan」を開催します。

会場では、燕三条地域のものづくりの歴史・変遷の年表展示、2019年の「燕三条 工場の祭典」に参加企業のプロダクト、職人やものづくりを撮影した写真、動画などを展示します。また、会期中は、展示に加え、燕三条エリアの職人らものづくりを体験するワークショップやトークショーを行い、この地域のものづくりを感じることができる構成となります。

#### 本展開催の経緯

燕三条地域は、江戸時代に和釘を作り始めたことから金属加工技術が発達し、現在では多種多様な金属製品の産地として世界的にも知られるようになりました。しかし、その道のりは決して順風満帆ではなく、近年も製品の低価格化、需要の減少、流通の変化、そして後継者不足などの問題を抱えながらも、産業の始まりとともに数々の困難を乗り越え、歴史を築いてきました。その歴史の主役である無数の名もなき職人たちが、単に技術を継承するだけでなく、時代に合わせて技術を変化させて新しい産業を創造し、ものづくりの炎を絶やすことなく現在まで繋げてきました。

「燕三条 工場の祭典」は、2014年ミラノデザインウィーク（イタリア ミラノ）、2017年台湾文博会（台湾 台北）、2018年 JAPAN HOUSE LONDON（イギリス ロンドン）と Designers' Saturday（スイス ランゲンゲール）への出展など、過去にも海外への出展を行ってきました。本展では、職人たちが築き上げてきた歴史とともに、現在に至るまで日本、そして世界各地の生活を支える多くの製品を紹介します。何気なく使う金属製品の魅力と価値を再発見してもらうことを目的に、その背景にある文化、歴史を伝えていきます。

#### 開催概要

タイトル	ROOTS OF METALCRAFT : Tsubame-Sanjo, Niigata, Japan		
開催期間	2020年2月21日（金）～3月22日（日）		
会場	Nanyang Academy of Fine Arts (NAFA) Campus 1, Ngee Ann Kongsi Gallery1&2 <a href="http://www.nafa.edu.sg">http://www.nafa.edu.sg</a>		
住所	80 Bencoolen St, Singapore 189655		
主催・運営	「燕三条 工場の祭典」実行委員会		
協力	Nanyang Academy of Fine Arts		
Website	<a href="http://kouba-fes.jp">http://kouba-fes.jp</a>		
Facebook	<a href="https://www.facebook.com/koubafes">https://www.facebook.com/koubafes</a>		
INATAGRAM	<a href="https://www.instagram.com/koubafes/">https://www.instagram.com/koubafes/</a>	TWITTER	<a href="https://twitter.com/koubafes">https://twitter.com/koubafes</a>

#### OPENING RECEPTION

2月21日（金）17:00～19:00。18:00よりギャラリーツアーを開催します。

## 展示会のみどころ

### 燕三条 産地のプロセス

燕三条エリアのものづくりの変遷を詳細に記載した見ごたえたっぷりの年表。

### 参加工場のプロダクト展示

2019年「燕三条 工場の祭典」に参加した、製品を生み出す「KOUBA(工場)」、農業に取り組む「KOUBA(耕場)」、そして地元の産品に触れ購入できる「KOUBA(購場)」のプロダクトを一堂に展示します。

### PHOTO EXHIBITION

「燕三条 工場の祭典」のオフィシャルフォトグラファー、神宮巨樹と古平和弘の眼差しを通して撮影した職人や工場の様子を展示。写真を通し、静かで力強い燕三条のものづくりの様子を感じていただけます。

### ものづくりの動画

工場のものづくりの様子を撮影した美しい動画を投影します。

## ワークショップタイムスケジュール

参加工場	概要	所要時間、項目、定員	日程
庖丁工房タダフサ 日野浦刃物工房	包丁仕上げ実演・体験	所要時間 60分 料金 未定 定員 各回6名 各日1日1回	2月21日(金) 2月22日(土) 2月23日(日)
玉川堂	鋳起銅器体験	所要時間 60分 料金 未定 定員 各回6名 各日1日1回	2月21日(金) 2月22日(土) 2月23日(日)
マルナオ	箸づくり体験	所要時間 60分 料金 未定 定員 各回4名 各日1日2回	3月21日(土) 3月22日(日)
MGNET	スプーンづくり体験	所要時間 60分 料金 未定 定員 各回8名 各日1日2回	3月21日(土) 3月22日(日)

## TALK EVENT タイムスケジュール ※一部内容に変更が生じる可能性があります。

テーマ	概要	所要時間、項目、定員	日程
燕三条の金物の歴史	年表と展示品をご覧くださいながら、燕三条の金属加工の歴史の解説をします。	所要時間. 90-120分 料金. 無料 定員. 50名 各日.2回	2月21日(金) 2月22日(土) 2月23日(日)
日本の刃物について	長年シンガポールで日本の包丁を専門で扱うRazorsharpのオーナーと、燕三条の包丁職人が、日本の刃物について語ります。	所要時間. 90-120分 料金. 無料 定員. 50名 各日.2回	2月23日(日)
日本とシンガポールの metal craftman	シンガポールと日本の金属製品の職人が、それぞれの伝統や職人技、歴史について語ります。	所要時間. 90-120分 料金. 無料 定員. 50名 各日.2回	2月22日(土)



信濃川



金属加工の様子



ワークショップイメージ



ワークショップイメージ

## 参考情報

Nanyang Academy of Fine Arts (略称：NAFA、日本語名称：南洋芸術アカデミー)



1938年創設。シンガポールにおける芸術教育機関のパイオニア的存在として、厳しくもハイクオリティなカリキュラム構成、専門家主導によるイノベティブな授業方法、多様性に満ちたアートクリエーションとコミュニティへのアウトリーチ（支援・奉仕）活動などで知られています。NAFA出身者の活躍も目覚ましく、シンガポールで芸術文化活動に最も貢献した人に贈られる文化功労賞を13名が受賞、ヤングアーティストアワードは14名が受賞しています。卒業生の多くはシンガポールおよび国外のアートシーンを活躍の場としてプロの道を歩んでいます。

アート&デザイン学部（3Dデザイン、メディアデザイン、ファッションスタディ、ファインアートプログラムを含む）、音楽学部、アートマネジメントおよび舞踊演劇学部の3部構成で、舞踊演劇学部のディプロマコースはイギリスの名だたる大学と連携体制をとっています。

大学内には、Ngee Ann Kongsiギャラリー1 & 2およびLim Hak Tai ギャラリーを併設し、特別研究を伴うキュレーションプログラムなど、可視化された表現世界の実践の場とパラダイムをもたらす展示を行っています。

### 燕三条 工場の祭典 <http://kouba-fes.jp>

2013年にスタートした金属加工の産地、新潟県燕三条地域とその周辺地域の工場が一斉に工場を開放し、ものづくりの現場を見学・体験できるイベント。日本を代表する産地で多種多様な製品を産み出しているKOUBA(工場)、米どころとしても有名なこの地で農業に取り組むKOUBA(耕場)、この地で作られた製品を販売するKOUBA(購場)、3種のKOUBAを巡ることができます。期間中、普段は閉じられている場所を訪れ、職人たちの手仕事を間近に見て、彼らと対話し、ワークショップに参加することができます。2019年は、製品を産み出す「KOUBA(工場)」90社、農業に取り組む「KOUBA(耕場)」11社、そして地元の産品に触れ購入できる「KOUBA(購場)」12社、全113の工場が参加しました。2020年は、10月1日（木）～4日（日）の開催を予定しています。

### 燕三条地域について

**暮らしを支える職人の街：**日本の国土さながら、南北に長い新潟県のほぼ中央に位置する燕三条。燕市と三条市の二市からなるこの地域に横たわる、日本で最も長い川である信濃川。万葉の時代から人々に愛された信濃川は肥沃な土地を育て、古くから農耕を支えてきました。この農業を起点に燕三条では工業や商業が発展し、世界有数の「ものづくりのまち」として知られるようになります。

**農業から工業へ：**江戸時代の和釘づくりが燕三条の転機となります。信濃川とその支流である五十嵐川が合流する三条周辺に暮らす農民が、頻発する洪水に苦しめられていたところ、大官所より和釘製造が副業として推奨され、それが根付いたとされています。やがて越後で新田開発が盛んになると開墾用農機具の製造へと発展。さらに大工道具や包丁などの刃物鍛冶へと転換していきます。一方、江戸時代に鋳起銅器の製法が伝えられた燕は、早くから和釘鍛冶は銅器などの加工業へと移行します。大正時代には洋食器の生産が盛んになり、現在につながる金属加工の一大生産地へと発展をみせました。工業化が進んだいまでも、両市には鍛冶や鋳起を始めとする伝統的な技法を受け継ぐ職人が多く活躍します。明治初期、海運が栄えた新潟県は日本一の人口を誇るほど繁栄を見せました。越後平野の中心で河川が合流する三条は物資の集散地として発展し、金物商人が日本全国に燕三条製品を届けるようになります。こうして燕三条の優れた金属製品が日本中へと知れ渡るようになりました。燕三条はいまも、人口比率に対して日本でもっとも社長が多い街といわれます。それは家族経営や数人程度の社員による小規模な企業が、刃物や金属洋食器などの金属製品を中心に多種多様な製品を作り出すからに他なりません。古くから日本の暮らしを支えてきた燕三条の「ものづくり」は農工商により支えられています。

### 「燕三条 工場の祭典」運営チーム

全体監修: method

アートディレクション&デザイン: SPREAD

撮影: 神宮巨樹、古平和弘

プロジェクション: 岸本智也

編集: 山田泰巨

翻訳: カプラン・ザッカー

ウェブ: 株式会社スマイルファーム

プレス: HOW INC.